

# オオヤマレンゲ咲く大峰・八経ヶ岳 1915m

斉藤 整紀

●2017年7月16日（日）晴れ時々曇り

●メンバー 斉藤整紀（単独）

●日程 阿部野橋 5:26（近鉄）⇒6:57 下市口（タクシー）⇒行者環（西口）8:20⇒奥駈道出合 9:20⇒弥山小屋～弥山（昼食）11:15～30⇒八経ヶ岳 12:20⇒明星ヶ岳 12:50⇒日裏山 13:30⇒高崎横手の出合（狼平分岐）14:00⇒栃尾辻 15:30⇒17:30 天川川合バス停 18:12（バス）⇒下市口 19:18（近鉄）⇒京都 21:11（新幹線）⇒23:29 東京

前日の15日夜、近鉄始発の大阪阿部野橋駅近くのビジネスホテルに泊まり、16日、朝一番の電車で下市口へ。7時約束のタクシーに乗り込む。

帰りのバス停のある天川川合までは、よく見る地方の片側1車線の国道であるが、そこからが大変、これが国道かと疑うレベル。川迫川に沿ってそそり立つ絶壁を削り取った林道程度の道で、舗道ながら、狭く、対向車にも苦勞する。それでもトンネルが出来たお蔭で、山越えの頃よりも速く、安全に走れるようになったとか。

川の岩壁にしがみ付く様に咲く赤いイワツツジが可憐である。これが咲く頃、八経ヶ岳のオオヤマレンゲも咲く、と運転手から朗報！

途中、沢屋の車も多いが、トンネルを抜けると登山口で、駐車列！有料駐車場以外にも数十台を数える。百名山の最短コース狙いの多いこと！

標高1094m、気温18度。橋を渡って、急斜面に取付く。木の根と露岩で歩きにくい、樹林帯に風が抜けて気持ちが良い。花季を終えた石楠花の木が目立つ。出発後1時間程で、大峰山脈の幹線奥駈道に出合い、緩やかなアップダウンの快適な道に。苔むす弁天ノ森の次に聖宝理源大師像を過ぎると階段道などの急登が続き、鉄梯子と鮮やかなグリーンの苔原を過ぎると、弥山小屋に到着。

大勢が休息を楽しんでいる。木陰のベンチが空くまで、まず鳥居の先の弥山に行く。下から見れ

ばそれなりの峰に見えるが、山頂は平凡。また弥山から望む八経ヶ岳も木々の緑で覆われているためか、修験道のメッカ山上ヶ岳の岩稜のイメージからは程遠い。弥山小屋に戻って、昼食後、南方すぐ先の八経ヶ岳を目指す。森に歩を進めて、鹿除けゲートを潜るとオオヤマレンゲの見事な花に出会う。花弁が開く前は白無垢の花嫁の気品があり、花が開いた姿は日本芙蓉の小ぶりの様。



八経ヶ岳は、大峰山脈の最高峰で、時々ガスは走るものの、展望は素晴らしく、百名山客で賑わっている。混雑から脱して、明星ヶ岳を目指す。こちらはほとんど人に会わない。枯れ木立の明星ヶ岳は寂しい限りである。山頂からは八経ヶ岳の南面の断崖が望まれるのは興味深い。ここから奥駈道から離れ、天川川合方面へ向かう。地図にはレンゲ道とあるが、オオヤマレンゲの花には出会うことはない。やはり柵で保護した場所以外は鹿の食害が進んでいるのか。日裏山など小さなアップダウンをこなして1時間余りで狼平分岐に出る。

避難小屋から弥山小屋へのルートと別れ、ひたすら下ると1時間半で栃尾辻に出る。避難小屋は使えず、坪内道は通行不可。ここから更に天川川合まで2時間程下る。歩き辛いトラバースが多く、崩れかかった径や悪路も多く、慌てると危険である。途中、午後の日差しに輝く山上ヶ岳に魅了される。やはり大峰は山上ヶ岳が一番！ようやくバス停に辿り着いたが、バスが下市口駅を前に渋滞、予定していた電車には乗れなかったが、後続の特急に間に合い、辛くも新幹線に間に合った。（了）